笑楽日塾だより

２０２３年8月号
２０２３．９．３０
第６７号
発行：笑楽日塾

笑楽日塾はＳＤＧｓを応援します。

塾長あいさつ

荒井貞夫

秋は運動会

長い暑い夏が終わってもまだ本格的な秋を感じられない。世界中で山火事が発生したり、ハワイで大火になったり、リビアで大水害、モロッコで地震など地球が異常な夏だった。

夏休みが終わって子ども達が学校へ戻ってきた。笑楽日塾のメンバーは新井邦夫さんがリーダーとなって、中央小学校放課後子ども教室のお手伝いをしている。

吉田喜義氏、先崎隆氏、星広行氏、南英倫氏それに小生の６ 人が実行委員会のメンバーになっている。放課後子ども教室については新井邦夫氏が８月号の「シニアの風」で紹介している。子ども達と遊んでいて感じることがいくつもある。もうすぐ運動会だ。

昔、こんな風潮があった。かけっこ（徒競走）で順位をつけないため全員が手をつないで一緒にゴールする事が行われた時代があった。

こうした教育現場を経験した子ども達がどういう人材に育ったかについて、興味深い報告があると聞いた。このような、いわば競争を否定する教育を受けた人たちは、利他性が低く、、協力に否定的で、互恵的ではなく、やられたらやり返す考えを持つ傾向が強いという事だった。

「競争することは、走ることだけではない。競争によって個人の能力を磨くインセンティブが与えられる。それが他人の能力を評価することに繋がり、それぞれに異なった能力を持った人たちが力を合わせることの重要性が認識されるようになる」。という事ではないかと報じられていた。

最近増えている不登校と競争・運動会は何か繋がりがあるのだろうか。

競争という言葉を聞くと、「和を以て貴しと為す」という日本人の考え方に合わないと謂った印象を持たれることがある。これは競争という言葉が「争う」語を含んでいることに由来するかもしれない。

競争と日本語は福沢諭吉が英語の Competition を翻訳したものとされているが、争いという語は穏やかではないといった風潮があったのだろうか。
競争という言葉の本来の意味は、競い合う事を通じて、それぞれが脳力を磨き上げ供に向上していこうというインセンティブを与える物だ。

子ども達は小さいときから競争を楽しんでいる。私は1年生、2年生にかけっこや鬼ごっこをやらされて、負けてしまう。勝った子ども達は嬉しそうに大いに楽しんでいる。仲間に負けて泣き出す子供いるが、2～3分で元に戻って遊んでいる。
子ども達は競争を楽しんでいる。
もうすぐ秋の運動会だ。子ども達がどんな走りを見せるか楽しみだ。10 月 15 日には中央地区 7 町会対抗の運動会があって、その花形は子供から大人まで参加するリレー競争だ。

運動神経の鈍い私は、運動会は苦手だった。
走ればいつもビリの方だった。騎馬戦や、フォークダンスも苦手だった。それでもみんなと競争して、近所の人も見ている中で運動会の一日を精一杯やった。

順位をつけないため全員が手をつないで一緒にゴールするなんて誰が考えて実行したのだろうか。それで優秀な子供が育ったのだろうか。
本格的な秋が待ち遠しい。

放課後子ども教室の他に「土曜塾」があって 3 年生～6 年生 20 人ぐらいが土曜日の 9 時半～11 時半に学校に来て宿題などをやっている。新井邦夫さん・吉田喜義さんが手伝っている。そこへ市役所から「不登校の中学生を受け入れてくれ」といってきた。市内三つの中学校に 100 人以上の不登校生がいるというから驚きだ。運動会で一生懸命走って不登校にならないで貰いたい。その生徒が土曜塾へきたら、どんな声かけをすれば良いのだろうか。
シニアの学習アドバイザーの悩みは尽きない。運動会を見に来てくれるといいんですが。

完

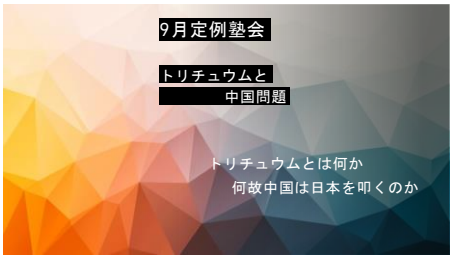
笑楽日塾9月 塾会報告

期　日　2023 年9月 14日 19時 30 分～20時15分
会　場　オンライン Zoom 会議
出席者　内田、高木、先崎、吉田、星、清藤、新井(邦)、荒井
欠席者　菊地、荒川、八木、南、新井斉、長谷川

9 月 1 日(金)スポーツクラブ NAS 総支配人/森武大輔様から「今月の笑楽日塾はいつですか。いつでもロイヤルルームを使って下さい」と温かい呼びかけがありました。
8 月 10 日は久々にゆったりと懇談出来ました。

今月はオンライン会議に戻りました。
塾会開始前の話題は吉田さんが大ファンであるマジック 1 に迫った阪神タイガースの試合でした。塾会が始まる 19 時 30 分時点では 4 対 1 で阪神がリード。

今夜のテーマは「トリチュウム問題」でした。



2011 年 3 月 11 日東日本大震災が発生して、福島原発で電源が失われたために、原子炉を冷却できなくなって、炉心融解(メルトダウン)という事態になった。
原子炉を冷すために大量の水を掛け続けなければならない。

今年の 4 月 15 日にドイツは全ての原発を停止したが、その政策の発端はこの事故である。福島第一原発事故を受けて、当時のメルケル政権は、その時点で稼働していた 17 基の原発のうち、古い原発 7 基と事故停止中の 1 基を稼働停止にし、残り 9 基も 2022 年末までに段階的に廃炉にする方針を決めた。

そもそも原子炉の電源喪失の対策を打っていればメルトダウンは起きなかったはずというのが私(荒井)の持論である。設計者は何故その対策をしておかなかったのか。「想定外だった」という言い訳は許されない。想定外の事を、あらゆる事を想定して危険な原子炉運転対策を盛り込まねばならない。それを怠った。そのことを追求する専門家も、ジャーナリストもいない。

私は猛毒の高圧ガスである液体塩素や液体アンモニアを鉄道で運ぶ高圧ガスタンク車の設計に参加したが、当時の国鉄や運輸省の技監とタンク車が脱線転覆しても、危険な液体が流れ出ないように、タンク本体や注入・排出の弁類の設計と取り扱いマニュアルを作った。
どんなことがあっても絶対に大丈夫だと確信が持てなければ、鉄道輸送は出来ない。

福島では、いつまでも冷却水が溜まって、もう耐えきれなくなって、海洋放出になってしまった。

タンクを設置する場所もなくなる事は分かっているのに、計画的な対策を講じなかった。
処理装置 ALPS は優秀な装置であるが、水に中に溶け込んでいるトリチュウムは除去できない。

　トリチュウムは自然界や空中にも漂っていて、人体内や魚の体内に蓄積する物ではない、ALPS で処理した水（処理水）は安全なレベルまで薄めて海洋放出する。これを IAEA 国際原子力機関が「問題無い」と認めたことで、岸田政権は韓国や中国への事前の根回しを怠った。海外からどのような反響があるのか、事前に想定しなかった。それが中国の反発を招いた。

　中国の原発から海洋放出されているトリチュウムは日本の何倍も多い。
そんな事は隠しきれないのに、中国は国民の目を日本に向けさせ、国内不況、国民の不満のガス抜きに利用している。
　中国はいま、重要な人物が何人も消息が分からなくなっている。そんなことは多くの国民は何にも知らない。

　９月１日になってようやく在北京大使館が反撃の PR を始めたことは良いことだ。「中国だってトリチウムを処理せず海洋放出しているではないか。その濃度は日本の何倍もだ」

トリチュウム問題はこれからどうなっていくのか、第 2 弾、第 3 弾の幕開きがあるのか注視していきたい。
これ迄の経緯はパワポ【023.8. 31　9 月 14 日塾会「トリチュウム問題」】をご覧下さい。

　阪神は 18 年ぶりにリーグ優勝を果たした。11 連勝で地元甲子園での優勝だった。吉田さんの喜びの笑顔が目に浮かびます。

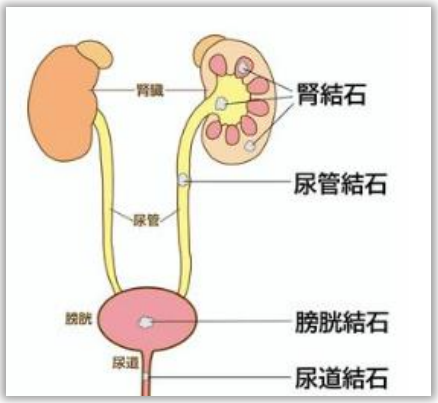
完

「シニアの風」

（順番制で行います。
2023年10月「シニアの風」投稿は荒川　徳広さんですので宜しくお願い致します）

「救急車に乗る」　　吉田　喜義

ゴールデンウィークも終盤の土曜日、生まれて初めて救急車に乗りました。
朝、目が覚めると下腹部に鈍い違和感。トイレでの尿の出方もいつもの勢いがない。朝食も食欲はないが軽めに済ませた。食後、30 分ほどしたら左腰に錐を突き刺すような痛みを感じた。体の姿勢を変えても痛みは治まらない。これが「結石か！」と一瞬考えた。



過去に結石での痛みを感じたことはなかったが、痛みに強さから結石と感じた。インターネットで色々見ても「結石」に間違いないようだ。痛みがきつくなる。腰を冷やしても水を飲んでも改善しない。排尿しようとしても思うように出ない。吐き気も感じ、呼吸のタイミングがわからなくなる。とにかくこの痛みを和らげたい。

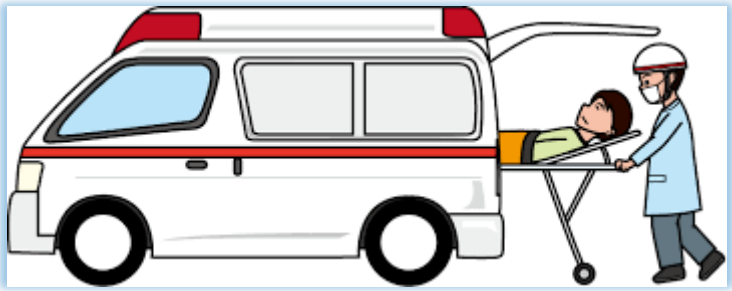
階下の内科医に行って痛みを和らげる処置をしてほしく受付に行った。診察を申し込むと「待ち時間 150 分」と言われ帰宅。家人は。お出かけ　我慢できないので、やはり救急車を頼もう！しかし、これが本当に救急に値するか、まず「＃7119」と思い、ダイヤルしたが土曜ということあり、応答が「テープが流れるのみ」。やはり救急車か。健康保険証、現金、携帯電話を持って、救急車を呼ぼう！しかし、家人が返ってきたときに私が不在で救急車を呼んだことをメモで残しても、運ばれる病院は救急車が来なければ決まらない。家人が返るまであと 40 分くらい待とう！

You Tube など見ていると結石の患者は結構多いようだ。男性で 7 人に一人、女性では 15 人に一人とか。ネットには、「尿路に痛みを感じたら、水をたくさん飲んでジャンプするのが良い。石は尿路を下がってきて痛みが和らぐ」とか。脂汗を流して痛みに耐え、家人が返って来たところで、「119番」電話した。

マンションの階下に出ている旨を伝え、部屋を出た。待つこと 7,8 分救急車到着。家人と車に乗り込む。救急隊員は電話通報のやり取りで結石系を承知しているようで、いくつかの問診の後、「戸田中央病院」との連絡が取れ、サイレンを鳴らしながら直行。車内で、持病の有無など聞かれ、血圧な測定。

隊員が、「吉田さんは、何かスポーツされていますか？」と聞かれ「週に 3, 4 回プールで 1 時間ほど泳いだり、月に 2 回ほどゴルフをする程度ですけど」「血圧は正常で、脈拍が 59 ですね。これは 73 歳にしてはスポーツ心臓ですね。」ちょっと嬉しいけど「早くこの痛みを止めてくれ！」

病院へ到着。担架から診察室ベッドに移動、土曜日だからなのか、医者、看護師は皆若手。問診、触診の後、鎮痛剤の点滴を受けることに。準備をしている女性看護師が「吉田さん今の痛みは、10 段階でいくつくらいですか？」私の返事は「9!!」



CTスキャンの後診察室に戻ってきた。周りの医者、看護師がレントゲン、CTの結果を見ながら「石は見えないね。もう尿路を通って膀胱に落ち、排出されたようだね。」と話している。結局、救急担当の医師としては、「石は見当たらない明後日、改めて泌尿器科を受診するように、今日はこれでお帰りになって結構です。」看護師、「吉田さん、今の痛みは？」「2.5!!」午後 3 時過ぎ、タクシーで帰宅した。

翌週、泌尿器科での受診時にも、血液検査、レントゲン、CTスキャンを再度受診したが、石は見つからず。医者は、「結石の特別の予防法はありません。ま―、水分を多めにとって、バランスの良い食事をとることです。ところで、レントゲン写真で前立腺の肥大が見られるので、そちらの処方箋を出しておきますので薬を飲んでください。
次回、4 か月後に再診してください」蕨市では、救急車出動件数は、令和 3 年は 3, 880 件、その中 2, 888 件が急病搬送の様で す。救急隊の皆様お世話になりました。

以上

編集後記

八木　守

『 名月を　取ってくれろと　泣く子かな 』小林一茶

季語：名月（秋）

意味：あの名月を取ってくれと泣く子がいるなぁ。

この有名な句は作者が自分の子供を背負っている時の様子を詠んだ一句です。

背負われながら空を見上げて、無邪気にあの月が欲しいと泣く子供を微笑ましく感じますね。

しかし、上の写真の様な風景はもう蕨では見られないでしょう。

荒川の上流土手か田舎にいかないとなかなかこのような風情は見られないでしょう。

段々と自然が身近に無くなるのは寂しいものです。

なにかと忙しい毎日ですが　**夜、月を眺めた日がありますか？**

完